

も、必ずしも器械や設備がないから練習されぬといふ様な窮屈なものではございません、自己の體と疊一疊だにあれば、誰でも亦何處でも出来るのであります。

私は世人が忘りに主義なく精神なき運動法にのみ奔ることを避けて、成るべく規則正しき効力ある運動法を擇び、以て十分體育の眞價を發揮せられんことを希望するのであります。なほ各種の運動に關する新しい方法や實例に就いて、種々お話し致したい事もあります、それらは更に研究の上機を得て精しく申上げること致しませう。

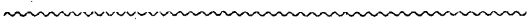
### 遊戯的手工とは何ぞや

和田 實

「幼稚園恩物」と云へる名稱は、フレーベルの名と共に廣く教育家の間に知られた名前ではあるが、併し是が現今小學校に於て盛んに流行否研究されて居る所の手工と全く同一のものであると云ふことは、未だ知らぬ人が多い様である。法令の上に

も小學校令施行規則の中には手工と云ふ名前を用ゐて居るに係らず、幼稚園の章中には明かに「恩物」と云ふ別名を採つて居るから實質を知らぬ人は全然別物であるかの様に思ふに違ひない。成る程、恩物と所謂手工とは多少異なる點のあることは否定することの出来ぬ所ではあるが大體に於て恩物と云ふ手工の一種類は手工と云ふ手工の一種類のものとしも變はつた所がない、且つ其教育的價値に於ても兩者は全く同様な期待の本に教育的材料と認められて居る次第である。故に若し小學校に於て彼を手工と呼ぶならば幼稚園に於ても之を手工と呼ぶ方が名稱の上に統一があるとはねばならぬ。勿論材料の取扱方等に於て兩者は異なる點を以て居らぬ譯ではないが細工其ものを仔細に見て行つたらば、其決して根本より異なるものでないことが判るであらう。人或は恩物と云ふ名稱はフレーベルの効績と共に永く保存す可きものであるから假令其内容が小學校の手工と全然同一であるとしても其取扱方等に於て多少の差異ある以上は恩物と云ふ名稱を保存して置いても

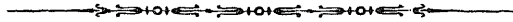
差支ないではないかと云ふ人もあるけれど、併し  
 教育は活動の一系列である、幼児教育は頓がて小  
 學校の教育に接続すべきものであるとしたならば  
 其教育材料の引き續いて行くものは矢張り同様の  
 名稱を續けて行くことが便利ではあるまいか、幼  
 稚園時代には恩物と云つて居つたが小學校に行つ  
 たら急に手工と云ふ名稱に變つたと云ふのは可笑  
 しなことではあるまいか、且又斯様に實質を同  
 し教育價値を同ふする二つの事項否一つの事項を  
 單に幼児時代に用ゆると小年時代に用ゆるとに於  
 て其名稱を異にして別種のもの、様に扱ふこと  
 は、科學的理論的組織を立つる上に大なる障害と  
 云はねばならぬ。故に吾人は爾後實際の場合には  
 慣用の名稱を用ゆるとしても組織的理論を講ずる  
 場合には從來の恩物なる名稱を廢して、廣く行は  
 れて居る手工と云ふ名稱を用ゐる様と思ふのであ  
 る。併し茲に一つ注意すべき點がある。幼稚園の  
 手工は小學校の手工と全然同一ではない。兩者は  
 其性質に於て其取扱方に於て多少異なる點を  
 有して居る。従つて名稱の上に於ても出來得可く



ば其特質を表はす様にしたいものである。是に於  
 てか吾人は表題の如く「遊戲的手工」の名を用ゆる  
 譯である。然らば何故に吾人は之を呼んで遊戲的  
 手工と云ふかと云ふことは次に説明せらる可き疑  
 問であらう。  
 元來手工の教育的價値と云ふものは彼コメニユ  
 ース等の改革的教育家に因つて夙に十七世紀に於  
 て唱導せられて以來、英吉利ではジョン、ロツク  
 佛國ではルーソー等の力に因つて益其必要なこ  
 とが主張され遂にはベスタロツチをしては之を其  
 ノエホッフの貧民學校に施さしめ、フレーベルを  
 しては之を幼児教育に實行せしめたものである。  
 然るに十九世紀に於けるヘルバルト派教育學の勃  
 興は此教科に對する注意を輕んじたるために折角  
 起り來つた手工的教育の氣運を阻得するの悲境に  
 陥いつた。けれども、實業的教育主義の普及と新  
 心理學の勃興とは相率ゐて遂に此科の教育的價値  
 を發揮せしむるに至つて、僅々二十年ばかりの間  
 競ふて採用する所となる様になつた。我國に於て

は既に明治九年に於て東京女子師範學校附屬幼稚園  
 園即ち現今の女子高等師範の附屬幼稚園に恩物と  
 して採用したのが始めてはあるが小學校の教科と  
 して採用することを許したのは明治十九年以來の  
 ことである。併し近年、我文部省は極力獎勵の  
 方針を採るが爲めに今は全國到る所に於て此教科  
 を課するものがある様になつた。併し斯様に盛ん  
 に教育的事項として採用せらるゝ迄に認められた  
 所の手工科の教育的價値は二つの方面を採つて居  
 る。即ち一つは其心理的形式の方面と、も一つは  
 其實質的實用的方面である。小學校の教科として  
 は一方に心理的發達に資すると共に他方には社會  
 的生活的資料としての役立をもせねばならぬ。此  
 意味に於て手工は教科としての資格を完備して居  
 るものである。併しながら此意味に於ける手工は  
 幼児教育に於ける教育事項としては餘りに立派に  
 過ぎて居る。従つて斯る嚴格なる意味に於ける手  
 工は幼児に課することが出来ぬ。吾人が幼児に課  
 する所の手工は單に其心理的發達に資するを以て  
 目的として居るもので、云はゞ形式的目的の一點

張りとも見るべきものである。勿論形式的發達の  
 ある所、必ず實質的發達なきはなし。で幼稚園の  
 手工も何等かの實質を伴はぬことはない。幼児教  
 育に施せる手工の實質的方面は吾人の常に考ふる  
 が如き社會的實用的意味あるものではなくて主  
 として幼児の現在生活に資するものである。而し  
 て幼児の現在生活とは何ぞやと云はゞ是は主とし  
 て遊戯にありと答へねばならぬ。是に於てか小學  
 校に於ける手工と幼児教育事項としての手工とは  
 其結果に於て一は社會的實用的なるに反し一は單  
 に遊戯的なるの差異あることが判るであらう。是  
 即ち吾人が幼稚園の恩物を目して遊戯的手工と呼  
 ぶ第一の理由である。且又小學校に於ける手工は  
 云ふ迄もなく嚴然たる教科である。其材料の選擇、  
 排列は充分に嚴格なる法則の支配する所たる可  
 く、其被教育者に對するや固より權威ある強迫を  
 行ふことを得可し。然るに幼稚園に於ては此の如  
 く嚴格なることは出来ぬ。材料の選擇は單に或程  
 度迄必然的に斯様なものを要すと云ふに止ま  
 り、決して具體的に是々を爲さむめんなど、確定



することは出来ぬ。其材料の排列とても同様である。之を論理上から見たり心理的に考へたりしたらば材料夫れ自身には各當然の順序があるに相違ない。併しながら幼児の遊戯的行動が決して一事項の組織的順序を追ふものではない。偶然の結果に因つて常に種々なる前後をなすもので、要は幼児自身の主観的心理的發達の上に於ける必然の順序を踏むの外決して人為的順序や排列などに拘泥するものではない。換言すれば幼児の行動は極めて自由の分子を含むこと多くして之を精密に豫定することは到底不可能のことである。偕て幼児に課する所の手工が此の如く極めて自由に遊戯的に取扱はるゝとしたならば之を小學校に於ける教科的手工と區別して遊戯的手工と名づけることは當然のことではあるまいか。是吾人が遊戯的手工の名を採用する第二の理由である。

以上論ずるが如く幼稚園に於ける幼児の手工は其取扱上より見るも其結果より見るも共に遊戯的範圍を脱却することの出来ぬものであると云はねばならぬ。然るに茲に頑固な人がある。曰く



遊戯は徒戯である。教育に反するものである。遊び憚が着くと云ふことは、後來の教育上大に恐るべきことである。幼稚園の出身兒は兎角教科を遊戯化して困る。手工は教科的作業であつて遊戯でない。其幼稚園に於ける手工と雖も決して遊戯的に扱ふべきものではない。且又幼兒と雖も日々若干の努力的作業に従事することは、後來の修養上必要な課程であると、

併し此人は遊戯と云ふものが如何なる性質のものであるかと云ふことを知らぬ人である。幼兒の精神を發達せしむるものは遊戯の外に得られないと云ふことを知らぬものである。凡ての教科と云ふのは遊戯の中に其萌芽を有するものでなければならぬと云ふことを知らぬ人である。而して此人の所謂日々若干の努力的作業に従事せしむることを此手工の中に見出さんとするは遊戯を以て其方の犠牲とするものである。吾人固より其方の必要を知つて居る。幼兒には日々若干の努力的行動を採らしむべきものであることを知つて居る。併しなから遊戯を勤勞化して迄も之を強迫しなければならぬ。

らぬものであるか否かと云ふことは大に疑はざるを得ない。否吾人は興味を以て基礎として居る遊戯的活動をば徒に勤勞化して基礎なく興味なき努力の偶像たらしむることは寧ろ極めて有害なことであると思ふのである。何となれば斯の如き不自然なる勤勞の結果は決して興味と努力とを結合せざる自發的勤勉と云ふものを養成する必然の順序と見ることは出来ないからである。

好し數歩を譲つて幼稚園の手工をば教科としての手工と同視するとした所で、其取扱方は如何にす可きかと云ふ問題はなに因りて解決す可きか、今日の所教授學の諸法則は決して幼稚園の作業を指導するに恰好のものではない。教授學の法則は應用すれば、する程幼稚園の本旨本領に遠かり行くことは實際吾人の常に經驗する所である。此場合於て之を遺憾なく指導し得ることは、之を遊戯の見地より説明することである。即ち幼稚園に於ける保育事項としての恩物は遊戯的手工として見る時に於て尤も完全なる理論的解決を得るものである。

### 幼稚園に於ける 幼兒保育の實際 (承前)

某 女 史

(3)

談話(3) 元來幼兒は談話を好めども當組幼兒が之を喜ぶことは實に甚だしきものなり。殊に第二學期の中頃より第三學期に至りては談話者の技倆の巧拙に關らず殆んど飽くことを知らずして聞く風あり。三十分より四十分を渡る談話をもよく意して聞くこと常なり、現在の所何物よりも談話を喜ぶ風あり。

談話の材料は保育要項にあるものを中心とし標準としたれども其他に用ひたるものは少からず新に用ひたる談話の題目

- 猿ばしの話
- 帽子賣りの話
- 猿の魔物話
- 梅の魔物話